

1. 北陸地域の社会・経済の現状

1. 地理的優位性

- 日本列島のほぼ中央に位置し、3大都市圏から近く、日本海側の扇の要
- アジア諸国・極東ロシアと日本を結ぶ架け橋として重要な位置
- 道路・港湾・空港・鉄道の交通インフラの機能強化により、国内外のネットワークの強化が見込まれる

2. 人口

- 著しい人口減少・高齢化の進行、中山間地や能登半島等おける過疎化
- 豊かで住みやすい地域性を象徴する人口日本一の明治中期

3. 経済(産業・観光)

- 豊富な水資源などを背景とした企業立地に適した環境
- 古くから地域に根づいた産業を発展させ、国際競争力のあるものづくり産業が集積
- 美しい自然や豊かな歴史・文化を活かした多くの観光資源が存在
- クルーズ船寄港や新幹線開業を背景とした国内外観光客の増加

4. 自然災害

- 急峻な地形や脆弱な地質、急流な河川、活断層等の地形・地質条件
- 日本有数の降水量や冬期の集中的な大雪による甚大な被害が発生

3. 広域的な交通の課題と取組

[取組] 物流機能の向上

- [課題] ・日本海側有数の重要な物流拠点として機能
 ・アジア諸国、極東ロシアと北陸の後背地を相互に結びつける窓口
 ・太平洋側での大規模災害時のバックアップ

[取組] 安定的な輸送を可能とする道路の確保

- [課題] ・北陸の貨物輸送の大半がトラック輸送(道路)に依存
 ・事前通行規制区間、大雪時の交通障害等の脆弱箇所が多数存在
 ・通行止めリスクが高い県境部には周辺に迂回路となる道路がない

[取組] 適切な交通負担

- [課題] ・生活交通と物流交通の混在
 ・市街地中心部へのアクセス集中と通過交通の流入

[取組] 国内外の交流人口の創出と活性化

- [課題] 空港・鉄道・高速バス・船舶を中心とした国内外の観光客増加、地域間の格差・希薄な結びつき

[取組] 生活に必要な交通手段の確保

- [課題] 中山間地や半島における公共交通の不足、自動車への依存が高く、渋滞が発生

[取組] 物流・人流の効率化に資する新たな交通マネジメントの可能性等

2. 北陸地域の将来像

<北陸地域の将来像>

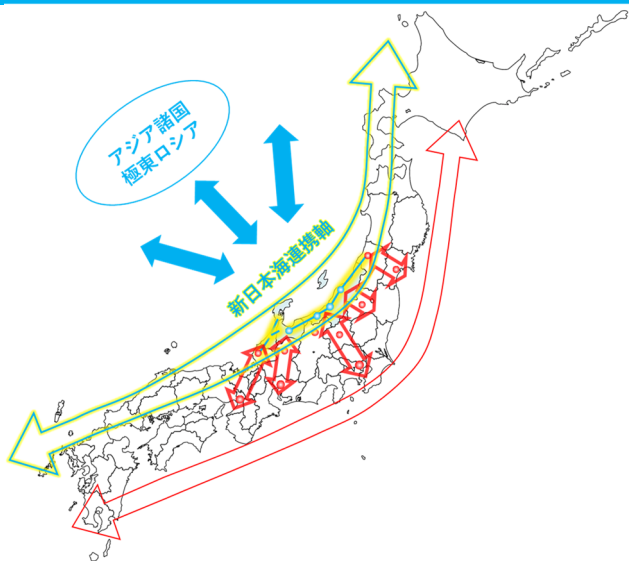
未来を担う世代のために絶えず国内外と一体に発展し続ける
 日本海新時代を牽引する「ほくりく」

<北陸の目指すべき姿>

地理的優位を最大限に活かし、
 国内外との連携・交流を強力に
 推し進める
流通・交流都市「ほくりく」

企業立地に適した土壌と
 ものづくり産業の
 強みを活かした持続的な
経済発展都市「ほくりく」

豪雪などの厳しい自然を克服・
 活用して、豊かな暮らしを守る
安全・安心都市「ほくりく」



4. 広域的な道路交通の基本的方針

<広域道路ネットワーク>

- 視点1 主要な物流拠点と高規格道路等とのネットワーク強化
- 視点2 観光・交流のネットワーク強化と安全安心な交通の確保
- 視点3 災害時の広域的なネットワークの多重性・代替性の強化

<交通・防災拠点>

- 視点1 都市部における多様な交通モードの集約と更なる利便性向上
- 視点2 都市と郊外との交通ネットワークの充実による地域活性化
- 視点3 災害に強く柔軟に機能する信頼性の高い防災拠点の拡大・強化

<ICT交通マネジメント>

- 視点1 ICT等を活用した道路の情報収集・利活用の強化
- 視点2 他の交通モードとのデータ連携によるモビリティサービスの向上
- 視点3 ICTやAIをフル活用した物流交通マネジメントの強化
- 視点4 ICT等の活用に向けた産学官連携による推進体制の強化